

異文化交流研究

互いの違いを受容し豊かに共生していこうとする子どもの育成

越前市武生西小学校

1 はじめに

豊かな共生社会の実現をめざすには、これからの時代を担う子供たちに、互いの違いや異なる文化をもつ人々を受容し、共生していこうとする意欲や態度を育むことが重要である。本校は、外国にルーツを持つ児童が約26%在籍しており、異文化に日常的に接することができる環境といえる。これを生かして、異文化理解に努め、お互いを思いやる人権意識の向上を図る取り組みを続けてきた。

2 取組の概要と成果

(1) 交流行事の実施

外国人保護者などをゲストティーチャーとして招き、踊りや料理、文化紹介など互いの国の文化に触れる活動を行ったり、保護者を交えた集会や交流の場を設定したりして、異文化理解を図った。

① 児童集会「トゥカーノ集会」

小学生・幼稚園児・日本人保護者・ブラジル人保護者が参加して、季節の行事や踊りで交流した。2回目の集会では、人権に関するクイズや握手などを通して、多様性を尊重し合う態度の伸長を図った。



② 「ブラジルの食文化を知ろう」

3年生はブラジルのおやつ「ジェラチーナ・コロリーダ」、6年生はブラジルの国民食「フェイジョアーダ」を作る活動をした。ブラジル人保護者と日本人保護者も参加し、調理を通して交流し、互いの文化への関心を高めることができた。



③ 「ブラジルの昔遊びを体験しよう」

1年生の生活科「昔遊び」の学習の一環として、ブラジルのこまやけん玉、ペテッカ等の遊びを親子で楽しんだ。



(2) 他教科等における多文化共生教育

① 道徳教育の推進

「特別の教科 道徳」において、内容項目〔公正、公平、社会正義〕

〔国際理解、国際親善〕〔相互理解、寛容〕を中心に、人権教育と関連付けながら授業研究を進めた。1年生では「ことばがつうじなくても」を主題として〔国際理解、国際親善〕の授業を行い、仲よくなるためのはじめの一步について自分なりの行動意欲を高めることができた。また、学活と関連づけ、ブラジルからの編入生を温かく迎える会を相談・企画し、学んだ価値の行動化につなげることができた。



② 「元青年海外協力隊員のお話を聞こう」

1、3、4、6年生が、コスタリカと日本の文化の違いや学校生活や遊び、おやつ等について映像やクイズ、ゲームを通して説明を受けコスタリカへの理解を深めることができた。また、6年生は国際協力に関する仕事について、自分の今後の進路と重ね合わせながら理解を深めることができた。

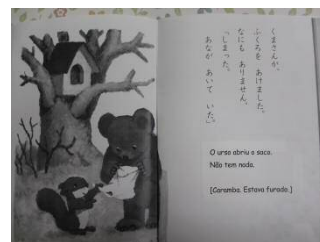
③ 「地域と進める体験推進事業」

5年生は、「地域と進める体験推進事業」の学習活動の中で、自分たちの地域のよさを、多言語化した資料や紹介文を活用して紹介することができた。

(3) 環境の整備

① 日本語指導体制の充実

今年度、のべ30名の児童に対し、プレクラス、初期指導、中期指導の3つのクラスを開設して指導してきた。昨年度より開設した中期指導クラスでは、リライト教材や翻訳教材等の自作教材を活用しながら、教科と日本語の統合指導を進め、基礎学力の底上げを図った。一連の指導により、学習に困り感を持つ外国人児童が主体的に学習に取り組めるようになった。



② 保護者への支援

外国人保護者の学校への理解を高めるために、校内外の多言語化（配布文書の翻訳、行事や校内放送での2カ国語放送等）、外国人保護者のPTA役員選出、保護者同士の交流の場の設定等を行った。

3 おわりに

交流活動や個に応じた支援を進めてきた結果、外国人児童が自信を持って活躍する姿が増えた。同時に日本人児童にとっても、他者との違いを肯定的にとらえたり積極的に交流しようとしたりする心を育てることにつなげることができ、共生社会実現への一步となった。